

氏名 吉 本 修 子

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 636号

学位授与の日付 昭和49年9月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学位論文題目 マウス腹腔内に挿入された diffusion chamber 内のヒト
リンパ芽球様株細胞の培養
第1編 ヒトリンパ芽球様株細胞の形態学的変化
第2編 ヒトリンパ芽球様株細胞への Rauscher 白血病ウイル
スの感染

論文審査委員 教授 佐藤 二郎 教授 大藤 真 教授 小川 勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第Ⅰ編では、ヒト由来のリンパ芽球様株細胞のクローン株を diffusion chamber (DC) に入れてマウス腹腔内で培養し経時的に DC 内の細胞につき種々検討を加えた。その結果、形態学的に DC 内のヒトリンパ芽球様株細胞は3週目から5週目にかけてそのほとんどが macrophage 様細胞に変換する事が観察された。又 DC 内の細胞を in vivo から in vitro に戻して再培養を行うと、腹腔内挿入後4週目までの細胞がもとのヒトリンパ芽球様株細胞に戻り得た。

第Ⅱ編では、EBウイルスの持続感染状態にあるヒトリンパ芽球様株細胞を DC に入れて Rauscher 白血病に罹患した BALB/c マウスの腹腔内に挿入し、1～2週後に再培養して得られたリンパ芽球様株細胞に関して、ウイルスの検索を行った。その結果、これらの細胞はEBウイルスとC型ウイルスの重複感染を来し、ことにC型ウイルス粒子を多数長期にわたって持続的に産生するようになった。このC型ウイルスには、もはや leukemogenicity はなく、Rauscher 白血病ウイルスの再感染に対してかなりのワクチン効果を示した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、ヒト由来のリンパ芽球様株細胞の軟寒天クローン株がマウス腹腔内でどの

ような性状の変化を示すかを diffusion chamber 内で見事に解決したもので学位論文として充分価値あるものと思われる。

殊に入リンバ芽球様株細胞が組織球様細胞に変化することは興味が深い。C型ウィルスの異同については更に検討が必要であろう。